

日系中堅・中小が奮闘

米国シカゴ市で開催中の第29回国際製造技術展（IMTS2012、シカゴショー）で日本の中堅・中小メーカーが奮闘している。自社の強みである高精度、高品質の技術を生かせる市場として北米に着目。海外での展示会出展が初という企業も多いが、それに臆することなく、自動車、エネルギー設備、医療機器などの分野への技術の売り込みに汗を流している。

（米シカゴ＝斉藤陽一）

IMTS2012

ジャスト（山形県上山市）は特殊メッキ技術で米国市場の開拓に挑む。IMTSでは外科手術の縫合針を保持する持針器の先端に、把持力を高めるためのダイヤモンド電着を施したサンプルを出品した。

同社は2008年のリマン・ショック以降、医療機器向けの開拓を強化してきた。岡崎淳一社長は「日本で使われる医療機器は米国製かドイツ製が大半。米国は世界の

経済の中心でもあり、今のように種まきをしてきたかった」と米国に着目した背景を説明する。まず特殊技術で市場の認知を得て、将来は自動車部品などさらに大きな市場の開拓に挑戦したいと考えて。

金属射出成形（MIM）部品の製造販売を手がけるエプソンアトミックス（青森県八戸市）も同様に医療機器分野に可能性を見いだす。切削加工が難しい難削材でも、



ジャストはIMTSで医療機器向けの特殊メッキ技術を訴求

自動車、エネ設備 医療機器に照準 技術力アピール

性に応じて材料から一貫して提案できる」と工藤純一取締役は強調する。東北電子産業（仙台市太白区）は微弱な光を測定して物の酸化や劣化を見極める装置を出品。プラスチック関連やゴム関連の用途に加え、切削油や潤滑油の測定への応用を模索する。超大型の工作機械を手がけるホンマ

・マシナリー（大阪府淀川区）は日本の大手企業向けに積み上げた実績を生かし、北米で航空機、エネルギー、建設機械などの需要を開拓する。

ティ・ディ・シー（宮城県利府町）は鏡面研磨加工技術を生かし、光学や半導体関連といった従来分野に加えて医療機器分野への進出を模索する。引地精工（宮城県岩沼市）は部品の鏡面部分の傷を検知できる外観検査ロボットを出品。平面、曲面の両方の測定が可能で、作業者による目

かせない。金属板にパンチプレスで穴をあけて金網状にした「パンチングメタル」製品を出品した奥谷金網製作所（神戸市中央区）は、12年4月に営業グループ内に海外営業担当を新設し、商社出

ファナックがまとめたIMTS2012でのコンピュータ数値制御（CNC）装置のシェア

CNC装置シェア ファナック製首位

ファナックまとめ

ファナックがまとめたIMTS2012でのコンピュータ数値制御（CNC）装置のシェア

ナック製の搭載は438台で、全体の57・6%を占めた。

前回2010年のIMTSと比べ、同社のシェアはわずかに上昇した。円高ユーロ安など日系メーカーにとって有利とはいえない経済環境の中でも、開発、製造能力、サービス、信頼性などの総合力を発揮して首位を堅持した。2位は独シーメンスでシェア14・1%の107台、3位が三菱電機で同9・3%の71台だった。